

Recovery Manager 入門 ～研修受講前テスト～

■問題 1 【RMAN 概要】

RMAN の特徴について、正しいものを 2 つ選びなさい。

- バックアップの領域を節約できる。
- 誤って削除したオブジェクトを再作成できる。
- バックアップ管理の負荷が軽減される。
- バックアップを定期的に行うことができる。
- 分からない

■問題 2 【RMAN のアーキテクチャ】

RMAN のアーキテクチャについて、正しいものを 1 つ選びなさい。

- バックアップ・リカバリ操作はユーザー・プロセスが行う。
- RMAN によるバックアップ情報は制御ファイルに格納される。
- RMAN は SQL*Plus から起動する。
- 障害によるバックアップ情報の消失に備えた仕組みが自動的に設定されている。
- 分からない

■問題 3 【RMAN によるデータベースへの接続とチャンネルの割り当て】

RMAN によるデータベースへの接続とチャンネル（セッション）の割り当てについて、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 接続のたびにチャンネルを設定する必要がある。
- 複数のチャンネルを割り当てることはできない。
- 接続には DBA ロールが必要である。
- チャンネルの設定情報は RMAN リポジトリに格納される。
- 分からない

■問題4【RMANバックアップの特徴】

RMANバックアップの特徴や利点について、誤っているものを1つ選びなさい。

- テープに対してバックアップできる。
- OSコマンドは使用しない。
- 一貫性バックアップ（オフライン・バックアップ）は、マウント状態で行う。
- 非一貫性バックアップ（オンライン・バックアップ）は、バックアップ・モードの切替えが必要である。
- 分からない

■問題5【RMANバックアップの特徴】

RMANでバックアップできないものを1つ選びなさい。

- SPFILE
- アーカイブREDOログ・ファイル
- listener.oraファイル
- 制御ファイル
- 分からない

■問題6【増分バックアップの特徴や利点】

増分バックアップの特徴や利点について、正しいものを1つ選びなさい。

- 増分バックアップは通常のバックアップと併用できない。
- 通常のバックアップを使用したリカバリに比べて、リカバリ時間を短縮できる。
- 増分バックアップを取得するには、初期化パラメータの設定が必要である。
- データファイル単位でバックアップする。
- 分からない

■問題7【RMAN 使用時の制御ファイルの特徴やバックアップ】

RMAN 使用時の制御ファイルの特徴やバックアップについて、正しいものを1つ選びなさい。

- 制御ファイルを多重化しておく、RMANリポジトリを分割して格納できる。
- 制御ファイルのみを単独でバックアップすることはできない。
- 制御ファイルを多重化しておく、RMANのパフォーマンスが向上する。
- 制御ファイルは自動バックアップを設定できる。
- 分からない

■問題8【RMAN を使用したバックアップの保存方針】

RMAN を使用したバックアップの保存方針について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 保存する世代数を設定できる。
- 保存期間が過ぎたバックアップは自動的に削除される。
- いつの時点までリカバリ可能にするのか設定できる。
- 不要なアーカイブREDOログ・ファイルを確認できる。
- 分からない

■問題9【RMAN を使用したデータファイルのリカバリ】

RMAN を使用したデータファイルのリカバリの流れについて、正しいものを1つ選びなさい。

- リストアするバックアップ・ファイルはRMANが識別する。
- 障害が発生すると、RMANが自動的に障害を検知して、自動的にリカバリする。
- RMANを使用すると、どのデータファイルに障害が発生してもデータベースを移動した状態でリカバリできる。
- 不完全リカバリではRESETLOGS操作が不要である。
- 分からない

■問題 10 【RMAN を使用した制御ファイル、オンライン REDO ログ・ファイルのリカバリ】

RMAN を使用した制御ファイル、オンライン REDO ログ・ファイルのリカバリについて、正しいものを1つ選びなさい。

- 制御ファイルが破損してもインスタンスは異常終了しない。
- 破損した制御ファイルをRMANコマンドで再作成できる。
- CURRENTのオンラインREDOログ・ファイルが全損すると、不完全リカバリを行う。
- 破損したオンラインREDOログ・ファイルをRMANコマンドで再作成できる。
- 分からない